

【 会 議 録 】

作成日	令和4年11月24日	作成者	環境推進課
会議名	令和4年度 第2回刈谷市環境都市アクションプラン推進会議		
日 時	令和4年11月15日(火) 14時～15時30分	出席者	別添のとおり ・委員 10名 ・事務局 5名
場 所	市役所5階 502会議室		
資 料	別添のとおり		
議事内容	下記のとおり		

【開会】

◆環境推進課長により進行（委員紹介後は、会長が議事進行）

◆あいさつ（会長）

今回は昨年度の進捗状況の報告と、改定のスケジュール等についての内容であった。今回は今後の改定の方向性とこれまでの進捗状況の整理、そして改定に向けた温室効果ガスに対する算定方法の見直し及び削減目標の設定手法についてなど、改定に向けて議論を深めていく内容となっている。

現在、COP27が行われており、日本は1990年代には環境先進国と言われていたが、COPで化石賞を受賞するような状況となっている。刈谷市には、日本の産業を支えている大企業の研究部門も存在しており、様々な存在を繋ぎ合わせて取組を推進していくための改定となる。

委員の皆さんには、様々なところで活動され、これまでに培われたものを活かしていただけるようぜひ積極的にご発言いただき、内容の精査にご協力をお願いしたい。

◆委員紹介（環境推進課長）

出席委員を順に紹介

※出席委員が過半数以上であるため、会議成立。

【議題】

（1）刈谷市環境都市アクションプランの改定について

資料1に基づき事務局より説明

◆意見・質疑

特になし。

（2）刈谷市環境都市アクションプランの進捗状況の整理

資料2に基づき事務局より説明

◆意見・質疑

委員 : BEMSとはどういうものなのか。

事務局 : Building and Energy Management System の略称で、建物のエネルギーの使用状況等を一括で管理し、最適化する仕組みであり、

【 会 議 録 】

省エネ・省CO₂に寄与するものである。

- 会長 : 民間及び公共施設のBEMSの普及状況はわかるのか。
- 事務局 : HEMSのように市で補助事業を実施しているものは、補助件数を把握できているが、BEMSは補助事業を実施しておらず、普及状況等は把握できていない。
- 会長 : 普及状況を数値化することが難しく、取組の進捗状況を把握することも難しいということか。
- 事務局 : 現行アクションプラン策定当時は、BEMSの補助事業を検討していたのかもしれないが、現状はそれに至っていない状況である。
- 会長 : 数値化することが難しいということはわかった。
BEMSも新築時であれば導入はしやすいが、既築では難しいことや、最近の新型コロナの影響で換気が重要視されており、換気を行いつつ効率的な空調が求められる等の課題があると思われる。今後の技術の向上も含め、取組を進めていくという方向性は重要であると考えている。

(3) 温室効果ガス排出量について

資料3に基づき事務局より説明

◆意見・質疑

- 会長 : CO₂以外の温室効果ガスについて、市民や企業等の取組による削減効果はどのように考えていくのか。
- 事務局 : CO₂以外の温室効果ガスは現状算定していないので、どのような取組をしていかなければならないかは、これから検討していく状況であるが、現状では、温室効果ガス排出量の大部分を占めているのはCO₂であるので、本アクションプランの改定においても、現在と同様にCO₂に特化した取組とすることを考えている。一方で、CO₂以外の温室効果ガスを算定していないので、なぜCO₂に特化した取組としているのかということが明確になっていないのが現状である。そのため、まずは全ての温室効果ガス排出量を算定し、全体の大部分を占めているのはCO₂であるため、CO₂に特化した取組としていることを示したいと考えている。

【 会 議 録 】

- 会長 : 量としては少なくとも、温室効果としてはCO₂の何倍にもなるものもある。そういった点を市民の方に意識していただくためにも、CO₂以外の温室効果ガスについても数値化して示していくことは重要だと思われる。
- 委員 : 資料3の2ページに代替フロン等4ガスとなっているが、6ガスではないのか。
- 事務局 : CH₄とN₂Oと代替フロン等4ガス（HFCs、PFCs、SF₆、NF₃）で、6ガスということである。

(4) 温室効果ガス削減目標の検討方法について

資料4に基づき事務局より説明

◆意見・質疑

- 委員 : 今回の推進会議では、2030年に何%削減するかということを検討するのか。
- 事務局 : 国の示す取組による削減効果と市独自の取組による削減効果を積み上げて、削減目標の案を示した上で、皆様に議論いただきたいと考えている。国が2030年に46%削減を掲げている中で、同様の値あるいはそれ以上の値を目指していくことにはなっていくかと思うが、そういった点についても皆様からご意見をいただきたいと考えている。
- 会長 : 国の示す取組による削減効果に期待するが、実際に実現可能かは不透明であり、個々の努力が必要になってくると思われる。COPで化石賞を取っている現状を考えると、努力はしていても画期的なものが足りないことが示されているようにも感じている。刈谷市には、日本の産業を支えている大企業もあり、それを支える地元の企業や市民がいて、温室効果ガス削減の取組を進めている。推進会議に参加されている皆様は、様々な活動をされていると思われ、それらを刈谷市に活かしていただけることがあるのではないかと考えている。温室効果ガス削減目標は大きな目標であるので、単独企業では難しいことも刈谷市と共同で取り組むという機会になると良いのではないかと。
- 委員 : 国の取組と市独自の取組による削減効果を積み上げるということだが、愛知県の取組は考慮しないのか。
- 事務局 : 県の取組も国の取組に含まれる部分があるという考えから、国の取組と市独自の取組として削減効果を検討している。
- 会長 : 愛知県の取組が数値として出てきていけば、それについても検討

【 会 議 録 】

するという考えで良いか。

- 事務局 : 愛知県も現在、改定を行っており、パブリックコメントで改定案が示されている状況である。内容を確認して、本アクションプランに盛り込める部分があれば検討していきたい。
- 委員 : 資料2で示された各分野の施策の効果は、資料3の分野別の温室効果ガス排出量に反映されているのか。
- 事務局 : アクションプランにおける市の取組としては、中小企業を対象としており、資料2の進捗状況については、中小企業を対象とした取組として、市がどんな取組を進められたかを示すものになっている。一方で、資料3の温室効果ガス排出量は、大企業も含めた産業全体の排出量を示している。
- 委員 : 自動車業界としては、エコステーションの設置等インフラの整備が重要と考えているが、これまで企業と共同でエコステーションの設置を進める等の取組を行っているのか。
- 事務局 : 当時、個別に企業と連携した取組を検討していたかは把握できていない。推進会議にご参加いただいている皆様と連携して数値目標を持った取組を進めていければと考えているので、今後の改定の中でご意見等をいただきながら検討していきたい。
- 会長 : これまでの推進会議の中で、エコモビリティの分野では、水素ステーションの導入支援やエコカー導入支援等を市に実施してほしいというご意見もあった。そういった市からの支援（助成金）の取組だけでなく、企業と市が連携して実証試験的な取組ができないか等の提案をいただけると良いのではないかと考えている。
- 委員 : 削減目標の設定方法だが、国の目標が46%であるので同様に46%削減を目指すのか。あくまでも取組による削減効果を積み上げて削減目標を決めるのか。例えば、削減効果を積み上げて30%にしかならなかった場合、そのまま30%を目標とするのか、更に取組を積み上げて46%に近づけるのか。
- 事務局 : 現状で明確なことは言い難いが、国が46%削減を掲げている中で、それよりも明らかに低い目標値は立てにくいと考えている。
- 委員 : 資料4の2ページのグラフについて、BAUは2013年度よりも増加するように見えるが、どのように考えているのか。
- 事務局 : BAUは現状、何も対策をしないまま推移した場合の温室効果ガス排出量である。現状のグラフは考え方を示しており、BAUはこれから推計を行うので、2013年度よりも温室効果ガス排出量は少なくなる可能性もある。
- 委員 : アクションプランの改定時期はいつを予定しているのか。また、どのようなステップで進めていくのか。

【 会 議 録 】

- 事務局 : 今年度と来年度の2年度をかけて改定を進めていく予定である(2024年3月改定予定)。今年度は、削減目標も含めた骨子を作成し、市の取組として何ができるのかを示していきたいと考えており、来年度には改定案を皆様に提示する予定である。
- 委員 : 資料4の2ページのグラフにある市の施策による削減効果が、資料2で示された施策によるものか。資料2を見ると、数値で示せるものは少ないように思えるが、このグラフのように積み上げられるものなのか。
- 事務局 : 資料4のグラフは考え方を示しており、現段階ではイメージであるが、削減目標を示す際には、積み上げた削減量も示していく。また、ご指摘のとおり、現状では資料2に示した施策の進捗状況評価は抽象的な表現が多くなっている。今後の改定の中で、数値指標を持ち、それを達成することでCO₂削減を図っていくことを示していきたいと考えている。
- 事務局 : これまでも数値化して目標を立てていくべきではないかというご意見をいただいていたこともあり、今回の改定では数値化して示せるようにしていきたいと考えている。
2030年までの6年間でどのように減らしていくのかというのは皆様も考えている部分であると思うが、資料4のグラフに示すように、国の施策による削減効果の影響が非常に大きいとは思っている。国の施策は、電化をして化石燃料の使用を減らし、電力も再生可能エネルギーを使用する方向に向かっている。国も46%削減の目標を掲げた以上、それに向かって取り組んでいくはずだが、国の取組が上手くいかなければ、このアクションプランの目標も共倒れになりかねないという懸念がある。国の施策で何%削減、市の施策で何%削減というのはしっかりと示し、市の施策の成果を示せるようにしていきたいと考えている。
- 会長 : これまでも数値化した目標をとという意見もあったので、今回の改定で数値化し、施策の効果をしっかりと示していくことは必要であると考えている。一方で、数値で示すことが出来ないから効果がない取組としてやめてしまうというのは大きな損失になってしまうと思われる。

(5) その他について

◆事務局説明

前回の推進会議にてお伝えしたとおり、本年度は3回程度の会議を予定している。今回示した改定の方向性と、本日いただいたご意見を踏まえ、次回は改定の骨子を示すことを予定している。第3回は年が明けて、2月頃を開催予定としている。

【 会 議 録 】

◆意見・質疑

- 委員 : 次回の推進会議の際には、削減目標や削減効果を示していただけるということか。
- 事務局 : 次回の推進会議で示す予定である。
- 委員 : 今回のアクションプランは、基本的には 2030 年に向けてということだと思われるが、長期的（2050 年まで）に行う取組として 2030 年までにここまで実施しておきたいということをアクションプランに入れ込んでいけると、今後の刈谷市の将来性もより広がると思われる。2030 年だけをターゲットにするのではなく、2050 年をターゲットにする中の 2030 年についても検討できると良いのではないかと考えている。
- 委員 : 次回の推進会議の際には、今回よりも早めに資料を送るようになることだが、どのくらいの時期に資料がいただけそうか。
- 事務局 : できるだけ早くお送りできるようにしたいと考えている。
- 委員 : 資料 3 の CO₂ 排出量は 2019 年度実績であるが、2020 年度実績はまだ出ていないのか。
- 事務局 : 国の統計資料等を使用しており、その統計資料が公表される時期を待つと 2019 年度のものが最新版になっているのが状況である。
- 委員 : 難しいと思うが、タイムリーに公表できるものだけでも実績が公表できると良いのではないか。
- 会長 : 公表されていないものはどうしようもないが、刈谷市内でわかるもの（刈谷市として努力した成果等）だけでも示せると、市民の方のやる気にも繋がるのではないか。
- 委員 : 推進会議のメンバーに中部電力様や東邦ガス様が入れているので、企業から刈谷市が情報を入手するという事は難しいのか。
- 事務局 : 以前はデータをいただいていたが、電力やガスの全面自由化に伴い、全量把握が難しくなっている部分があると伺っている。
- 委員 : 電力やガスの消費量の削減効果が、資料 3 の CO₂ 排出量に寄与しているということで良いか。
- 事務局 : 消費量が削減されているというよりは、電力の排出係数が下がっていることが CO₂ 排出量には大きく影響していると思われる。

【 会 議 録 】

会長 : 新しい技術や努力によって排出係数や原単位が変われば、CO₂排出量にも影響があるので、次回の推進会議の際には、CO₂排出量に影響を与えているもののデータ等も示していただけるとわかりやすいのではないかと考えている。

以上